

島根原子力発電所第2号機 指摘事項に対する回答整理表(浸水防護施設)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別、目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計 申し送り事項 No.107	その他	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:全般)	5条-別添1-添 付25-30.83	(まとめ資料での当社の記載) 防波壁(多重鋼管杭式擁壁)及び防波壁(逆T擁 壁)の海側に分布する耐震性のない施設護岸等 が、地震時の液状化に伴い損傷した場合に与え る影響について確認した結果を説明する。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【C】)	
詳細設計 申し送り事項 No.108	その他	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:全般)	5条-別添1-添 付25- 42.56.95.105.1 49.160	(まとめ資料での当社の記載) 防波壁の評価について、要求事項、間接支持す る設備、構造的特徴、及び周辺状況(周辺地質) の観点を踏まえ、防波壁の応答が耐震評価上最 も厳しくなると考えられる断面を選定したうえで、 防波壁の詳細設計の結果を説明する。	2022/9/28 後日回答	防波壁の評価について、要求事項、間接支持する設備、構造的特徴、及び周辺状況(周 辺地質)の観点を踏まえ、防波壁の耐震・耐津波評価を行ううえで厳しい断面を評価対象 断面として選定しました。 評価対象断面における防波壁の耐震・耐津波評価結果は別途説明します。	NS2-補-027-08「浸水防護施設の耐震性に 関する説明書の補足説明資料」 P.(参考)1.8-1~54(通し頁P.135~188)	主な説明事項 【1-9】 (分類【D】)
詳細設計 申し送り事項 No.109	その他	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:全般)	5条-別添1-添 付25-188	(まとめ資料での当社の記載) 詳細設計段階で説明する防波壁周辺の地盤物 性(改良地盤等)を用いて算出する施工ブロック 間の地震時の相対変形及び津波波圧を考慮し た、止水目地の詳細設計の結果を説明する。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【D】)	
詳細設計 申し送り事項 No.110	ヒアリング (R2.7.28)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:全般)	5条-別添1-添 付25- 30.83.131	防波壁の長期的な維持管理方法について、今後 検討していくとしている時期を明確にして説明す ること。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【D】)	
詳細設計 申し送り事項 No.111	審査会合 (R1.10.31)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:多重鋼管杭式擁 壁)	5条-別添1-添 付25-25.60~ 64.68.71~73	東海第二発電所の鋼管杭鉄筋コンクリート防潮 壁の設計方針を適用するとしているが、許容限 界、セメントミルクの位置付け等、違いがある項 目については選定理由を資料に記載の上説明 すること。	①今回回答 ②後日回答	①防波壁(多重鋼管杭式擁壁)において、類似する構造である東海第二発電所の鋼管杭 鉄筋コンクリート防潮壁との相違点として多重鋼管杭の採用、鋼管杭の許容限界として 「道路橋示方書(平成14年3月)」を基にした降伏モーメントの設定、鋼管杭間のセメントミ ルク及びびグラウト材による止水性を抽出しました。 多重鋼管杭の許容限界の設定について、模型実験及び3次元FEM解析から、多重鋼管 杭が「道路橋示方書(平成14年3月)」を基にした降伏モーメント以上の耐力を有している とともに、降伏モーメントに至るまで弾性挙動を示すことを確認し、許容限界の設定の妥 当性を確認しました。	①NS2-他-212「防波壁(多重鋼管杭式擁壁) における多重鋼管杭の許容限界の妥当性 他」 P.1~27 ②後日回答	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.112	審査会合 (R1.10.31)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:多重鋼管杭式擁 壁)	5条-別添1-添 付25-25.60~ 64.68.71~73	今回指摘した島根特有の技術的課題につい ては、事業者自らが提示する課題であり、先行炉 の課題解決のプロセスが考慮されるべきもので あるため、今後の説明においては今回の指摘事 項と先行炉の実績を踏まえて資料を十分に作り 込んで提出して説明すること。	①今回回答 ②後日回答	②セメントミルクの評価等については、今後「NS2-補-027-08浸水防護施設の耐震性に 関する説明書の補足説明資料」のうち、「防波壁(多重鋼管杭式擁壁)の耐震性について の計算書に関する補足説明」にて説明します。	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	
詳細設計 申し送り事項 No.113	審査会合 (R2.8.20)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:多重鋼管杭式擁 壁)	5条-別添1-添 付25-40.67	多重鋼管杭式擁壁の構造成立性検討につい て、根入れ部周辺の岩盤のせん断破壊領域と引 張破壊領域の評価を示し、水平抵抗力に対して 同領域が及ぼす影響を考慮した設計方針を説 明すること。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	
詳細設計 申し送り事項 No.114	ヒアリング (R2.4.23)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:多重鋼管杭式擁 壁)	5条-別添1-添 付25-40.67	施設護岸が地震により損傷することを想定した 解析(施設護岸をモデル化しない解析)による防 波壁(多重鋼管杭式擁壁)の耐震性評価につい て、解析条件(物性値、地震動等)及び根入れ部 の岩盤健全性を説明すること。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	
詳細設計 申し送り事項 No.115	ヒアリング (R2.9.8)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:多重鋼管杭式擁 壁)	5条-別添1-添 付25-229.230	防波壁(多重鋼管杭式擁壁)の鋼管杭周辺岩盤 については、詳細設計段階において局所安全係 数分布のせん断及び引張破壊領域を確認する ことにより、鋼管杭の水平抵抗への影響を評価 するが、岩盤の破壊領域が連続的に拡大し、鋼 管杭の設計に影響を及ぼす場合は、対策(改良 地盤③の範囲拡大等)を実施する方針とするこ とを追記。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別、 目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計 申し送り事項 No.117	その他	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：多重鋼管杭式擁壁)	5条-別添1-添 付25-203,250	(まとめ資料での当社の記載) 防波壁(多重鋼管杭式擁壁)の被覆コンクリート については、鋼管杭とコンクリートの挙動を精緻 に確認するため、3次元静的FEM解析を実施 し、その詳細設計の結果を説明する。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	
詳細設計 申し送り事項 No.118	審査会合 (R1.10.31)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 81.82,107,115, 116	杭頭接合部の構造について、道路橋示方書で剛 結合を原則としている規定や剛結合以外の結合 方法の実験等による力学特性検証等、道路橋示 方書の記載内容との対応を踏まえて整理するこ と。	2022/9/21	杭頭接合部の構造について、道路土工擁壁工指針及び道路橋示方書の記載を踏まえ、 杭頭載荷試験及び3次元静的FEM解析による再現解析を実施し、大きな曲げモーメント が発生する際に剛結合からヒンジ結合に移行する力学特性を確認しました。	NS2-他-199「防波壁(逆T擁壁)のグラウン ドアンカのモデル化方針等について」 P.66~84	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.119	審査会合 (R2.2.25)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 81.82,107,115, 116	鋼管杭式逆T擁壁の底盤について、詳細設計段 階で杭頭部がピン結合に移行する力学挙動を模 型実験と解析により検証する際に、底盤がおお むね弾性域内に留まることを説明すること。	2022/10/12	鋼管杭式逆T擁壁の底盤について、杭頭部が剛結合からヒンジ結合に移行する力学挙動 を模型実験と解析により検証した上で、2次元動的FEM解析結果の応力状態がヒンジ結 合に移行する前の剛結合の発生曲げモーメントになっており、おおむね弾性域内になって いることを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震 性に関する説明書の補足説明資料」 P.(参考)2-5~25,35~38(通し頁P.203~ 223,233~236)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.120	審査会合 (R2.2.25)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 81.82,107,115, 116	鋼管杭式逆T擁壁の杭頭部のヒンジ結合につ いて、準拠する道路土工擁壁工指針の適用性を説 明すること。	2022/9/21	杭頭接合部の構造について、道路土工擁壁工指針及び道路橋示方書の記載を踏まえ、 杭頭載荷試験及び3次元静的FEM解析による再現解析を実施し、大きな曲げモーメント が発生する際に剛結合からヒンジ結合に移行する力学特性を確認しました。	NS2-他-199「防波壁(逆T擁壁)のグラウン ドアンカのモデル化方針等について」 P.66~84	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.121	ヒアリング (R2.1.16)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 81.82,107,115, 116	防波壁(鋼管杭式逆T擁壁)の杭頭結合条件に ついて、杭頭部のヒンジ形成過程と防波壁の損 傷の関係を踏まえた上で、杭頭をピン結合とし て評価する場合の設計の考え方を説明するこ と。	2022/10/12	鋼管杭式逆T擁壁の底盤について、杭頭部が剛結合からヒンジ結合に移行する力学挙動 を模型実験と解析により検証した上で、2次元動的FEM解析結果の応力状態がヒンジ結 合に移行する前の剛結合の発生曲げモーメントになっており、おおむね弾性域内になって いることを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震 性に関する説明書の補足説明資料」 P.(参考)2-5~25,35~38(通し頁P.203~ 223,233~236)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.122	審査会合 (R2.6.30)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 76.81,82,96,10 8	鋼管杭式逆T擁壁の鋼管杭の根入れ部につ いて、支持地盤への根入れが浅く、水平力に対 する支持性能を期待できない可能性があるため、 杭先端のせん断抵抗に期待しない設計方針を 検討し、構造成立性を説明すること。設計方針 は、杭周辺の地盤改良及びグラウンドアンカー の効果に期待して実態に即した内容とし、地盤 改良がない区間について地盤改良の追加を検 討すること。	2022/10/12	鋼管杭をモデル化した影響検討において、杭先端のせん断抵抗に期待しない条件での 耐震評価を実施し、影響が軽微であることを確認しました。 設計方針は、杭周辺の地盤改良及びグラウンドアンカーを実態に即してモデル化し、地 盤改良がない区間について地盤改良の追加を検討することとしました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震 性に関する説明書の補足説明資料」 P.2.1.3-113~121,(参考)2-26~34(通し頁 P.141~149,224~232)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.123	ヒアリング (R2.7.28)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 92~94,96	グラウンドアンカーについては、詳細設計段階に おいて逆T擁壁の転倒時の照査において見込む ことを説明する。	2022/10/12	グラウンドアンカーの設計アンカー力を見込んだ滑動・転倒に対する耐力の確認を実施し、 安定性を有することを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震 性に関する説明書の補足説明資料」 P.2.1.3-66,67,97~100(通し頁P.94,95,125~ 128)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.124	ヒアリング (R2.8.6)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 92~94,96	鋼管杭式逆T擁壁のモデル化方針について、実 態に即したグラウンドアンカーのモデル化方法を 詳細設計段階で説明すること。	2022/9/21	グラウンドアンカーについて、試験施工(基本調査試験)及び施工後の品質保証試験により 設定した設計アンカー力を用い、各部位の役割を踏まえて実態に即したモデル化、物性 設定及び許容限界の設定を行いました。	NS2-他-199「防波壁(逆T擁壁)のグラウン ドアンカのモデル化方針等について」 P.23~65	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.125	ヒアリング (R2.10.1)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 92~94,96	グラウンドアンカーの津波時の解析手法につ いては、詳細設計段階で適切な手法を設定する方 針であることが明確となるよう、まとめ資料にお いて説明すること。	2022/9/21	グラウンドアンカーについて、試験施工(基本調査試験)及び施工後の品質保証試験により 設定した設計アンカー力を用い、各部位の役割を踏まえて実態に即したモデル化、物性 設定及び許容限界の設定を行いました。	NS2-他-199「防波壁(逆T擁壁)のグラウン ドアンカのモデル化方針等について」 P.23~65	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.126	ヒアリング (R2.10.1)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付25- 92~94,96	詳細設計段階で検討するグラウンドアンカーの 許容限界(設計アンカー力)の設定根拠や安全 率については、施工後の品質保証試験によって 設定すること等を説明する。	2022/9/21	グラウンドアンカーについて、試験施工(基本調査試験)及び施工後の品質保証試験により 設定した設計アンカー力を用いて許容限界を設定し、発生アンカー力が許容限界以下と なることを確認しました。	NS2-他-199「防波壁(逆T擁壁)のグラウン ドアンカのモデル化方針等について」 P.23~65	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申し送り事項 No.127	ヒアリング (R3.2.9)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付44-9,11,17	縦断方向の地盤傾斜による防波壁の隣接影響 評価について、詳細設計段階の設計方針を、動 的解析等の解析手法を含めて説明すること。	2022/10/12	縦断方向の地盤傾斜による防波壁の隣接影響評価について、逆T擁壁の隣接する躯体 土士の支圧応力度に対する照査を実施し、許容応力度以下であることを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震 性に関する説明書の補足説明資料」 P.1.8.2-10.11, 2.1.3-12,65,92~95(通し頁 P.13,14,40,93,120~123)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への反映箇所	備考
		ヒアリング資料番号	図書種別、目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計 申送り事項 No.128	ヒアリング (R3.2.9)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付44-9.11.17	隣接する防波壁同士の支圧による損傷評価について、相対変形量が防波壁間の隙間を下回ることを確認し、上回る場合に支圧による損傷評価を行い、損傷による影響がある場合に対策工事を行う等の評価プロセスが明確となる設計方針を説明すること。	2022/10/12	縦断方向の地盤傾斜による防波壁の隣接影響評価について、逆T擁壁の隣接する躯体同士の支圧応力度に対する照査を実施し、許容応力度以下であることを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震性に関する説明書の補足説明資料」 P.1.8.2-10.11. 2.1.3-12.65.92~95(通し頁 P.13.14.40,93.120~123)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申送り事項 No.129	ヒアリング (R3.2.9)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付44-9.11.17	防波壁の止水目地について、詳細設計段階における評価方針を説明すること。	2022/10/12	止水目地について、横断方向及び縦断方向をモデル化した2次元動的FEM解析を実施し、躯体の変形量が止水目地の許容変形量以下であることを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震性に関する説明書の補足説明資料」 P.1.8.2-8~10.14. 2.1.3-9~12.59.62.69.106~ 108(通し頁P.11~13.17.37~40.87.90.97.134 ~136)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申送り事項 No.130	ヒアリング (R3.2.15)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	5条-別添1-添 付44-9.11.17	防波壁の構造成立性に係る詳細設計段階の検討方針について、法線方向及び法線直交方向の動的FEM解析を実施することが明確となるよう説明すること。	2022/10/12	止水目地について、横断方向及び縦断方向をモデル化した2次元動的FEM解析を実施し、躯体の変形量が止水目地の許容変形量以下であることを確認しました。	NS2-補-027-08改01「浸水防護施設の耐震性に関する説明書の補足説明資料」 P.1.8.2-8~10.14. 2.1.3-9~12.59.62.69.106~ 108(通し頁P.11~13.17.37~40.87.90.97.134 ~136)	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申送り事項 No.131	その他	-	設置許可 まとめ資料 3条	耐津波設計 (防波壁：逆T擁壁)	3条-資料6-1 P.216	(まとめ資料) 防波壁(逆T擁壁)の基本設計方針としては、PS 検層等に基づく改良地盤の物性値(管理目標 値)が確保されていることを三軸圧縮試験等の 室内試験及び原位試験で確認するとともに、 グラウンドアンカーによる変形抑制効果を踏ま えた設計を行い、施設的安全機能に影響を及ぼ さないように設計することとする。	①2022/6/1 ②後日回答	①防波壁(逆T擁壁)の改良地盤について、室内配合試験における三軸圧縮試験等を踏 まえ解析用物性値を設定し、設置許可段階において設定したPS検層等に基づく改良地 盤の物性値(管理目標値)を確保できることを確認しました。 ②防波壁(逆T擁壁)の改良地盤について、実施工における三軸圧縮試験及びPS検層に より、PS検層等に基づく改良地盤の物性値(管理目標値)及び室内配合試験において設 定した解析用物性値が確保されていることについて、施工進捗に合わせ、設工認審査に おいて説明します。また、グラウンドアンカーによる変形抑制効果を踏まえた防波壁(逆T 擁壁)の評価結果について、別途説明します。	①NS2-他-076 改02「解析用物性値(改良地 盤)の設定方針について」 ②後日回答	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申送り事項 No.132	審査会合 (R2.2.25)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：波返重力擁壁)	5条-別添1-添 付25-169~ 175	波返重力擁壁の壁体構造について、既設部分 と新設部分の一体化を前提として設計する方針 を明確にし、基準、指針類、事業者独自の管理 基準等の適用により一体化と評価する方針であ ることを説明すること。	①今回回答			主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申送り事項 No.133	審査会合 (R2.2.25)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：波返重力擁壁)	5条-別添1-添 付25-169~ 175	波返重力擁壁の壁体構造について、既設部分 と新設部分を一体化と評価できる根拠及び設計・ 施工上の配慮事項を詳細設計段階で説明する こと。	①今回回答	①擁壁下端の主筋の定着部に関して「コンクリート標準示方書[構造性能照査編](土木 学会、2002年)」に基づく定着長を確保し、許容応力により設計していますが、参考として アンカーとみなし、「各種合成構造設計指針・同解説(日本建築学会、2010年)」に基づき 新設コンクリートの主筋の定着部の損傷形態を想定して鉄筋の引張耐力の確認を行い、 既設護岸のコンクリートと新設コンクリートの一体性について確認しました。 また、新設コンクリートと既設護岸のコンクリート間の付着力を高め、既設と新設の一体化 を確実なものとするために実施された目荒らしによる効果を、付着強度確認試験を実施 し、「表面保護工法 設計施工指針(案)[工種別マニュアル編]」を参考に当社が設定し た管理基準に対して、目荒らし後の付着強度が確保されていることを確認しました。	①NS2-他-212「防波壁(多重鋼管杭式擁壁) における多重鋼管杭の許容限界の妥当性 他」 P.28~50 ②後日回答	主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)
詳細設計 申送り事項 No.134	ヒアリング (R2.4.23)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁：波返重力擁壁)	5条-別添1-添 付25-169~ 175	防波壁(波返重力擁壁)の壁体構造について、 既設部と新設部を一体化と見なす根拠とした表 面保護工法設計施工指針(案)の適用性を説明 すること。また、シベル筋等により既設部と新 設部が物理的に接合されていない壁体について、 せん断応力の伝達モードを評価し、既往のせん 断耐力評価式の適用性を説明すること。さら に、防波壁陸側の壁体新設部の鉄筋定着につ いて、フーチング隅角部の荷重伝達及び損傷形 態を評価し、定着方法及び定着長の設定方針の 妥当性を説明すること。	①今回回答 ②後日回答	②重力擁壁について、既設コンクリートのみで照査を行った結果については別途説明し ます。		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)

No.	指摘日	資料の該当箇所				コメント内容	回答日	回答	資料等への 反映箇所	備考
		ヒアリング 資料番号	図書種別、 目録番号	図書名称	該当頁					
詳細設計 申送り事項 No.135	審査会合 (R2.6.30)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:波返重力擁壁)	5条-別添1-添 付25- 164,165,297,30 0,308.317	<p>波返重力擁壁のケーソンの構造成立性評価において、以下の点を説明すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準地震動S_sに対して、隔壁、底版、フーチングが塑性化した場合であっても、一体構造の側壁(前壁、後壁、側壁)が弾性状態にとどまり、かつ止水性能を確保でき、防波壁としての構造が耐震設計及び耐津波設計の観点から成立する見通しであること。 ・3次元FEM解析結果から、地震時の隔壁等がどのような状態(変形、ひび割れ等)になるか。また、その状態が止水性能を担保している側壁にどのような影響を与えるか。 ・基準地震動S_sにより隔壁等が塑性化した場合、剛性低下を考慮した津波時の強度評価の方針など、耐津波設計上の配慮の必要性について。 ・基準地震動S_s未滿の地震により隔壁等が塑性化した場合、隔壁等にひび割れが生じた際の点検補修の要否など、基準に適合する状態の維持及び管理の成立性について。 	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	
詳細設計 申送り事項 No.136	審査会合 (R2.6.30)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:波返重力擁壁)	5条-別添1-添 付25- 164,165,297,30 0,308.317	波返重力擁壁の構造成立性の見直しにおいて、詳細設計段階で実施する荷重の不確かさケース、物性値のばらつきケース等を踏まえた対応方針及び具体的な対応策を説明すること。	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	
詳細設計 申送り事項 No.137	ヒアリング (R2.5.28)	-	設置許可 まとめ資料 5条	耐津波設計 (防波壁:波返重力擁壁)	5条-別添1-添 付25- 164,165,297,30 0,308.317	<p>波返重力擁壁のケーソンの荷重伝達メカニズム、損傷モード、弱部について明確にして説明すること。</p> <p>防波壁(波返重力擁壁)のケーソンについて、荷重伝達メカニズム、損傷モード、弱部を明確にして、各部位が津波防護機能及び荷重伝達性能を担保できることを説明すること。</p>	後日回答		主な説明事項 【1-9】 (分類【B】)	